

1. 基本情報

評価対象年度 (令和2 年度)

施策コード	122	施策名	生涯学習活動の支援
将来像	1	安全でうるおいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)	
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち	
担当部	教育部	担当課	生涯学習スポーツ課

2. 施策の方向

10年後の姿	生涯学習機会の充実や、特徴を生かした図書館運営などによって、市民の生涯学習に対する意欲が高まっています。また、学んだ市民がその成果を発揮し、新たに指導的立場となって地域で活躍する「学びの循環」が生まれています。		
施策の方向性	1	市民ニーズを踏まえた学習活動を支援します	
	2	「学びの循環」を生かした生涯学習を推進します	
	3	地域の情報拠点としての図書館サービスの充実に努めます	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和2年度決算額
文化活動振興事業	1, 2	生涯学習スポーツ課	1,344
図書館運営管理事業	3	図書館	46,829
総事業費(施策の合計)			48,173

4. まちづくり指標

指標情報				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度	令和7年度	
①	名称	この一年で生涯学習を行う機会(学びの機会)をもつことができた人の割合		目標値	—	16.4	16.7	17.5	17.9
	説明	—	単位 %	実績値	14.2(※1)	15.1			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	92.1%			
②	名称	これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしている人の割合		目標値	—	33.9	34.5	35.7	36.9
	説明	—	単位 %	実績値	29.4(※1)	32.2			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	95.0%			
③	名称	この一年で図書館に行ったことがある人の割合		目標値	—	53.0	53.0	54.0	54.9
	説明	—	単位 %	実績値	51.4(※1)	44.9(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	84.7%			

※1 平成29年度実績値

※2 新型コロナウイルス感染症拡大による減と推測される

5. 評価(令和2年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価) 維持	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍においても生涯学習を行う機会を維持するため、清瀬市公式YouTubeチャンネル上の配信を活用するなどして市民講座を実施した。 ●社会情勢を鑑みて、生活や命を守ることに直結する学習内容を中心に講座運営を実施し、参加者より高い満足度を得ている。 ●令和2年度は、高齢化とコロナ禍が重なり、活動停止となる生涯学習団体が例年に比べ増加した。 ●学びの循環をどのような社会情勢においても促進していくため、オンライン学習への移行や、生涯学習団体へのフォローを行っていく必要がある。 ●図書館運営管理事業では、じっくりと調べものをする、或いはゆったりと読書をするための場所を提供することが困難な状況のなか、貸出しによる利用を促進できるよう、より魅力のある資料の収集に努める必要がある。

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和2年度からの変更点	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、対面での市民講座や立科山荘バスツアーを中止した。また、図書館運営管理事業についても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、閲覧席を減らし館内の滞在時間も短時間に制限している。
-------------	--

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	「学びの循環」が実現されるような取組や、民間企業で実施されている類似講座の改廃が必要となる。また、社会情勢の変化を考慮するとともに、自治体の使命を鑑みながら、計画的な事業展開を図っていく必要がある。
	課題に対する令和4年度以降の取組	社会教育委員の会議の答申を受け、策定した生涯学習基本方針を基に、市民講座等を実施する。また、社会情勢に適した生涯学習講座を、オンライン配信など新しい方法を検討しつつ、実施する。
②	施策を進める上での課題	新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないため、「おはなしのじかん」「図書館子ども会」「ブックスタート事業」等の児童サービスが、殆ど実施できない状況が続いている。
	課題に対する令和4年度以降の取組	コロナ禍でも実施可能な児童サービスを模索し、その一環として、元町こども図書館にて「本のお楽しみ袋」事業を実施する。